

## 各支店長・営農指導員殿

10 月も例年に比べ高い気温で推移していましたが、月末から寒冷前線の南下により急に冷え込んできました。11 月に入ると気象的には、いつ霰が降ってきても不思議はありません。

さて、タマネギの植え付け時期となってきた、このことに関する問い合わせが増えてきています。特に、収穫後の吊貯蔵中の腐りに関するものが多いので、初めに言及します。ご参考に願います。

**吊貯蔵のタマネギが腐る原因**

吊貯蔵中の腐りの原因は複数あります。単純ではないので下記の項目について吟味してください。

**肥料のやり過ぎ**・・・大きなタマネギをとろうとして、遅くまで追肥をした。

6 月に収穫になる中生～晩生のタマネギは 4 月下旬になったらその後は一切追肥をやらないで下さい。また、前作に肥料を多く使う作物の後にタマネギを植えると、追肥を止めても肥料過多の状態になり腐りやすくなる場合があります。

**水を吸った状態で収穫しない。**

腐りやすい玉は、水分が多いものです。特に梅雨に入り雨が降り続いた後、水を吸ったタマネギを収穫するとすぐ腐ります。何日かの晴れ間の後に収穫してください。収穫後、天気が続く場合は圃場に 2～3 日おいて、天日で干します。

また、収穫後、すぐに茎葉を切って吊ったりしますが、茎葉を切ってしまうと、かえって乾燥がしにくくなります。長期保存する場合は茎葉を着けたまま吊るします。

**長期保存できる品種を選んでください。**

近年、辛味の少ない品種が多くなっています。また、中早生の品種が多く使われていますが、こうした品種は長期保存に向かない品種もありますので、品種特性を確かめて栽培しましょう。

**病害防除を行うようにして下さい。**

腐敗の原因は、りん片腐敗病と黒かび病が主体です。越冬後、殺菌剤を一切散布しないと、こうした病菌が切り口や収穫の時の傷口から侵入し蔓延し腐りに至ります。殺菌剤の散布で、病菌を抑えておくことが有効です。特に黒かび菌は高温多湿を好みます。吊乾燥する場合、車庫や小屋の奥では意外と乾燥しないものです。風通しが良いか確認しましょう。

りん片腐敗病はタマネギの茎葉が繁茂し始める頃から倒伏期まで感染し易いので、この期間内に雨が多いと多発し易いので注意が必要です。

**未熟堆きゅう肥を多用しない。**

未熟堆きゅう肥を多用しますと、土壌にカビ菌など腐敗菌がどうしても多くなりやすく、腐敗しやすい環境を作ります。更に農薬散布をしていないとなお更です。

**タマネギの栽培管理。**

11 月に入るとタマネギやエンドウ、春キャベツの定植が始まります。越冬野菜は冬の間の低地温の環境下で根を張らなければ成りません。そして、春を感じたら一気に伸びだすための準備を整えなければなりません。従って、越冬野菜は圃場の選定が重要になります。

**1、タマネギ作り方のポイント****1) 圃場の選定**

タマネギが水が停滞する圃場では、冬の間に腐ってしまいます。また、除雪した雪などが被さる場所も、常に水が当たるために生育不良となったり、腐ったりします。従って、排水が良く、日当たりが良く雪の深くない場所を選んでください。また、連作は可能ですが、前年腐りなど病害が多かった場合は、畑を代えてください。

**2) 圃場づくり**

タマネギは酸性に弱いので、石灰質肥料は他の作物より多めに施用します。定植の 10 日前までには施し良く耕しておきます。(理想的には 3 週間以上前)。肥料は定植の 2～3 日前には

施し、排水を良くするために高畝にして、根の広がりやすい環境を作ります。

施肥は根の発達を図るため、リン酸分を多めに施用します。基準施用量は1a(100㎡)当り石灰質肥料15kg、あさひ6kg、ようりん6kgを施用します。なお、害虫の発生を避けるため、未熟物を畑にすき込まないようにしてください。(完熟堆肥施用の場合は2~3kg程度です。)

また、マルチ栽培としますと、生育が促進されますのでお奨めしますが、裾は強風でめくられないよう、しっかり押さえをして下さい。

- 3) 定植適期を守ります。(本県での適期は11月5~10日位です。早く植えると葱坊主が立ちやすくなります。)また、あまり大きくなった苗は避けます。根が元気な若苗を定植します。植え傷みをさせないよう気をつけます。

## 2、植え付け

植え付けは、畝幅1.2~1.0m(天幅80cm位)とし、条間20cm(4条植え)、株間12cm程度とします。深さは3cm程度までで、深植えを避けます。植え付け後、株元の土をしっかり抑えてください。1㎡当たりの苗は25株程度必用となります。

## 3、植え付けの管理

年内は追肥は行いません。

マルチ栽培でない場合は、冬雑草の発生状況を見て、適宜中耕除草します。

冬期間雪が多かった場合、2月下旬に入ったら、灰などを散布し、融雪を促進します。

## 4、追肥

消雪後、2月下旬に追肥と同時に中耕し株元に土寄せします。マルチ栽培の場合は、そさい3号を400~500倍に薄めて灌水してやりますが、作業的に大変な場合は、降雨が見込める直前に、マルチの上に肥料をバラまきすることも可能です。施用の目安は1a当り「そさい3号」5~6kgです。(マルチ栽培の場合は3kg位とします。)

2回目の追肥は4月中旬頃に行います。施用の方法は1回目と同様ですが、肥料の量は1a当り「そさい3号」で4kg程度です。(マルチ栽培の場合は2kg位とします。)

追肥は遅くとも4月一杯までです。5月以降は追肥を行わないで下さい。

## 5、防除越冬後から、疫病の発生が多くなりますので、3月に入ったら、予防防除として、リドミルM

Z, 中下旬にはトップジンM、またはダコニール1000を散布しておきましょう。また、下記のような症状が見られたら、重ねて農薬散布をして下さい。

○早春期に葉の光沢がなくなり湾曲した感染株(越年株)が見られる。(ベト病)

○中央部に白色の病斑ができそこから折れ曲がり垂れ下がる。(白色疫病)

○中下位葉の葉梢部分が水浸状から灰色に変色し葉身部分も軟腐状になり葉は倒伏する。(軟腐病)

## 6、収穫

○収穫適期は、5月下旬以降、茎が全体の3割程度倒伏した頃からです。

○貯蔵性を良くするため、晴天の日に収穫作業を行います。

○短期間の貯蔵の場合は、茎葉を切り落とし、小型コンテナへ入れ通風の良い日陰に置き乾燥させます。

○晩生種で長期間貯蔵する場合は収穫時に茎葉を束ねて、わら、ビニールひもなどで結束し吊り貯蔵します。

## その他の越冬野菜の準備

### ソラマメ・・・植え付け11月10日頃。

排水の良いところを選ぶ。土をよく起こす。窒素を多く施用しない。移植栽培では10月中旬に一粒づつ種まきします。直播の場合は11月上旬に行います。種は浅めに蒔くようにして下さい。欠株を起しやすいので、補植用の苗を作っておきましょう。

## 1、ソラマメ作り方のポイント

1) 連作障害が出やすい作物なので、連作を避けましょう。3~4年は休みたいものです。

- 2) 耕土の深い地力のあるところに適します。
- 3) 土の酸性に弱いので、石灰を施すことを忘れてはいけません。また、土の乾燥にも弱い。
- 4) チッソ分が多いと根粒菌の働きが悪くなるので、施肥量は1㎡当たり10g以下とします。

## 2. 畑の準備

排水不良地ではうねを高くします。苦土石灰はうねを作る前に必ず施します。畝幅1.2m、35cm株間40~45cmの1条植えが基本。

施肥例：基肥は石灰140kg、ようりん60kg、あさひ50kgが基本。

## 3. 種まき

1㎡当たりの種子量は、陵西一寸で約10ml(7g)で、株間50cmの1条種きとします。オハグロ部分(発芽部)をななめ下または横にして、種子が隠れる程度に覆土します。

### エンドウ・・・11月中旬播種。

間引きは草丈7~8cmの頃に行い、生育の悪いものを間引き、2本立ちにします。エンドウは移植に弱いので土をできるだけ付けたまま根を傷めないように注意します。越冬前に株元とその周辺にモミガラを薄く敷き、寒さから守るようにします。また、育った茎が強風に振り回され、折れないよう保護してやりましょう。

エンドウは、冷涼な気候を好み、生育適温は15~20℃。マイナス4℃くらいまで耐えるけど、暑さには弱く、28℃以上になると生育が鈍る。連作に弱い代表的な作物。連作障害は強く出るので、同じ場所には5~6年間は作らないようにする。また、エンドウは酸性土壌が苦手なので、種まきの1週間くらい前に苦土石灰を多目にまいて耕しておきましょう。

### 栽培管理

種は10月下旬~11月中旬にまいて翌年5~6月に収穫。種まきが早すぎると、大きくなりすぎて冬に冷害を受けやすくなるから注意してください。エンドウは茎葉がか弱く、風に振り回されやすいので、一カ所当たり4~5粒まきにします。生えそろうたら間引いて2本立てとし、友育ちで寒風に耐えるようにしましょう。

直播が基本ですが、畑の都合で育苗、定植する場合は、128穴(60×30cmのトレーの穴数)を用いるようにします

畝面は、地温上昇や防乾、雑草防止のため、ポリマルチをすることをおすすめします。

### 越冬後の管理

晩秋に種まきしたサヤエンドウは、つるが少し伸びた状態で年を越し、早春になると急につるの伸長が早まってきます。これを地面に這わせたままにしておくと、細いつるが風に振り回されて生長が鈍り、折れやすくなってしまいます。そのため、冬の風当たりの強い所では、小さいうちから株の近くに竹棒や木の小枝など仮支柱を立てて振り回されないように保護してやります。このころは丈の低いもので十分です。

アスパラガス・・・寒気が増して葉が黄変してきたら、地際部から鎌で刈り取ってその場で乾かし、茎枯れ病や斑点病対策として焼却しましょう。そして、畝の両側に溝を掘って、堆肥や刈り草などを施し、畝に土を盛り上げて防寒します。

サトイモ・・・親ズイキで立っているものが2本程度になった頃が収穫の目安です。

### イモ類の保管

イモ類の保管温度はサツマイモ保存はある程度水分が低下してから、通気性のあるダンボール箱に乾いたモミガラに埋めるか、新聞紙で巻いて、家の中の温かい部屋で保管します。ただし、腐りがでた場合、新聞紙の方がより分けやすいです。この方法で全部ではないのですが、翌年の春先まで保管できます。ただし、温度変化の大きい場所は不向きです。

サトイモは立っている葉が2枚程度となった頃を見計らって、傷つけないように掘り取りまします。芋の間の土を落とし、天気の良い日に広げて充分乾かしてください。保管はサツマイモに準じますが、場所があれば小芋を折り取らず株ごと保管します。

パレイショは基本的には0℃以下にならないよう保管します。零下になると凍みてしまい腐りが出やすくなります。